

A-1 湯ヶ島中心部

西平の湯・落合楼・熊野山墓地周辺

1 湯道

湯道(左写真)は、洪作も含め、地元の人たちが共同湯に通った生活道路です。現在は、せせらぎが美しい小径として整備され、散策するのに最適です。道沿いの白壁荘(右写真)には、井上靖が愛用していた“あまじやくの間”があり、頼めば見せてもらえます。



2 西平の湯(現河鹿の湯)

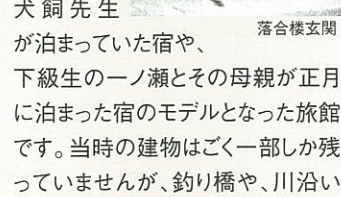
西平の湯(左写真)は、洪作が叔母のさき子、母、おぬい婆さん、或いは友だちと度々訪れた共同湯です。ここで洪作は暴れまわったり、体を洗ってもらったり、友だちと語り合ったりしました。建物は当時のものではありませんが、現在も同じ位置に河鹿の湯という名の共同浴場があります。有料で入浴できますが、観光用ではなく、地域の人の生活のための浴場なので、静かに利用しましょう。駐車場の奥には、かわいらしい犬猫温泉もあります。また、河鹿の湯の隣には、川端康成が『伊豆の踊子』を執筆した湯本館(右写真)があります。



「しるばんば」より
 洪作たちは共同湯に着くと、われ先にと真っ裸になり、思い思いに浴槽に飛び込んで湯の飛沫を上げて暴れた。つむも男の子供の中にはいつて暴れた。建物の傍を大川が流れていた。裸で河原に出て、大きな石を運んで来て湯の中へ投げ込んだりした。昼の共同湯には大抵の場合誰も居なかった。村人がはいるのは、日の仕事を終えた夕刻からである。洪作たちはさき子に叱られても叱られてもそんなことにはいっこうに構わず暴れた。さき子の白い豊満な裸体が湯しぶきの間から眩しく見えた。

3 落合楼(溪谷楼・伊豆楼)

落合楼は、洪作が勉強を見てもらっていた犬飼先生が泊まっていた宿や、下級生の一ノ瀬とその母親が正月に泊まった宿のモデルとなった旅館です。当時の建物はごく一部しか残っていませんが、釣り橋や、川沿いの苔むした階段などに、当時の雰囲気を感ずることができます。

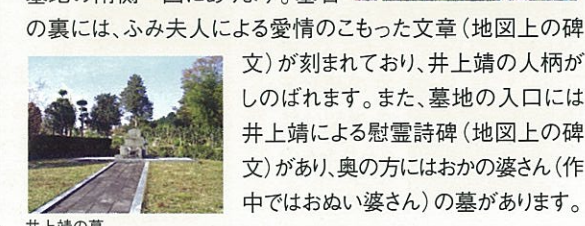
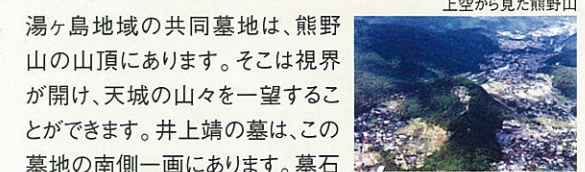


魂を魂に
 こころをこころに
 故郷へ帰る
 井上靖

ふみ夫人による
 墓誌より抜粋
 柔道六段
 お酒大好き
 心広く温かき人
 多忙な中にも幸せ
 な一生を終える。

4 熊野山の墓地(井上靖の墓)

湯ヶ島地域の共同墓地は、熊野山の山頂にあります。そこは視界が開け、天城の山々を一望することができます。井上靖の墓は、この墓地の南側一画にあります。墓石の裏には、ふみ夫人による愛情のこもった文章(地図上の碑文)が刻まれており、井上靖の人柄がしのべられます。また、墓地の入口には井上靖による慰霊詩碑(地図上の碑文)があり、奥の方にはおかの婆さん(作中ではおぬい婆さん)の墓があります。



A-1 湯ヶ島中心部

湯ヶ島小学校・天城神社・さくらの里公園周辺

3 湯ヶ島小学校

湯ヶ島小学校は、昭和4年に現在の位置に移転しました。正門を入って左手におぬい婆さんと洪作の像、右手に井上靖の妻の父である足立文太郎の顕彰碑、運動場の北側に「地球上で一番…」の詩碑、校舎内には井上靖展示室があります。(見学は平日のみ、事前に校長先生の許可を得てください。) TEL0558-85-0036



「地球上で一番…」の文学碑



おぬい婆さんと洪作の像

地球上で一番清らかな広場。北に向って整列すると、遠くに富士が見える。廻れ右すると天城が見える。富士は父、天城は母。父と母が見ている校庭でボールを投げる。誰よりも高く、美しく、真直ぐに、天まで届けと、ボールを投げる。

1 酒屋

友だちの芳衛の家は、当時造り酒屋を営んでいました。現在は、浅田家の住宅のみですが、その敷地内には当家と関係の深い若山牧水の歌碑があります。(見学する場合には、浅田家に一声かけてください。)



7 桜屋書店

『しろばんば』の中で上級生にいじめられ、反撃した光一少年のモデルとなった足立芳郎さんが、大人になってから経営していた本屋さんで、店内には井上靖コーナーもあります。



4 弘道寺

ハリスが泊まった寺として有名な弘道寺は、作品の中には出てきませんが、村の子供たちの遊び場だったようです。



5 天城神社

さき子と中川先生が、共同湯からの帰りにデートをした場所です。ここの狛犬(こまいぬ)は、なぜか2頭同じ方向を向いて、とてもユーモラスな表情をしています。



2 へい淵

へい淵は、洪作たち男の子たちが泳いだ場所で、狩野川の支流である長野川の河原にあります。ただし、現在の河原の様子は、昭和33年の狩野川台風の影響で当時とはかなり変わってしまったそうです。なお、そのすぐ下流には女の子たちが泳いだ巾着淵がありました。



6 さくらの里公園

さくらの里公園からは、湯ヶ島小学校や井上靖旧居跡、墓地のある熊野山、洪作たちが滑り降りて遊んだかんざぶと(下の写真:村の東部に広がる丘陵)など、『しろばんば』の舞台を見渡すことができます。晴れた日には、小さな富士山も望めます。『しろばんば』の世界を、是非上から眺めて味わってみてください。

